

スズキ、2014年3月期決算を発表

— 2期連続増収、5期連続増益、利益額・利益率は過去最高、期末配当は4円増配し14円 —

1. 2014年3月期決算の業績概況

当期の連結売上高は国内やアジア、欧州で増加し2兆9,383億円と前期に比べ3,600億円(14.0%)増加しました。国内売上高はOEM売上の減少を自社ブランドの売上でカバーし、1兆1,327億円と前期に比べ918億円(8.8%)増加、海外売上高は1兆8,056億円と前期に比べ2,682億円(17.4%)増加しました。

連結利益の面では、営業利益は為替影響による日本の輸出損益改善やアジアにおける収益拡大等により1,877億円と前期に比べ431億円(29.9%)の増加、経常利益は1,978億円と前期に比べ422億円(27.2%)の増加、当期純利益は1,075億円と前期に比べ271億円(33.7%)の増加となりました。営業利益、経常利益、当期純利益の各利益額、及び利益率は過去最高となりました。

なお、期末配当金につきましては、1株につき前回予想値から4円増配し、14円(前年期末配当金10円)とさせていただきます。この結果、年間配当金は24円となり、前期に比べ6円の増配となります。

2. 各セグメントの状況

四輪車事業につきましては、国内売上高は「スぺーシア」の好調な販売に加え、「アルト エコ」の燃費改善、新しいジャンルの新型軽乗用車「ハスラー」を発売するなど商品力を強化し拡販に努めたことに加え、消費税率の引上げに伴う駆込み需要の影響もあり前期を上回りました。また、海外売上高は欧州、インド、インドネシアなどでの増加により前期を上回りました。この結果、四輪車事業全体の売上高は2兆6,157億円と前期に比べ3,179億円(13.8%)増加しました。営業利益は為替影響による日本の輸出損益改善やアジアでの収益向上等により1,793億円と前期に比べ287億円(19.0%)増加し、過去最高となりました。

二輪車事業につきましては、売上高は為替影響や欧州での新型大型二輪車「V-Strom1000ABS」の発売等により2,666億円と前期に比べ363億円(15.8%)増加しました。営業利益は大型二輪車の収益改善等により前期の営業損失119億円から営業利益1億円へと、わずかながらも6期振りの黒字となりました。

特機等事業の売上高は欧州での船外機の売上増加等により560億円と前期に比べ58億円(11.6%)増加しました。営業利益は83億円と前期に比べ24億円(41.5%)増加しました。

所在地別業績につきましては、日本は為替影響による輸出損益の改善等により過去最高の営業利益となりました。アジアにつきましても、インドネシア、タイでの四輪車の販売増加や為替影響等により過去最高の営業利益となりました。欧州につきましては「SX4 S-CROSS」や新型大型二輪車の発売等により増収となり黒字化しました。

3. 次期の連結業績予想

次期につきましては、国内では消費税率引上げに伴う駆込み需要の反動減の影響、海外ではインド、インドネシア、タイなどアジアの成長市場での景気動向を注視しながら、当社グループは一丸となってあらゆる分野での改革に取り組み、以下の連結業績予想以上を達成すべく事業活動を展開してまいります。

(連結業績予想…通期)

売上高	3兆円	(前期比 2.1%増)
営業利益	1,880億円	(前期比 0.1%増)
経常利益	1,980億円	(前期比 0.1%増)
当期純利益	1,150億円	(前期比 7.0%増)

(為替レート) 1米ドル=100円、1ユーロ=135円、1インドルピー=1.65円、
100インドネシアルピア=0.85円、1タイバーツ=3.10円

以上